

Title	コロナ禍の経験から学んだ大阪公立大学 Vision 2030 : 大阪発、総合知で未来社会を創造する大学へ
Author(s)	井端, 雅一
Citation	年次学術大会講演要旨集, 39: 195-199
Issue Date	2024-10-26
Type	Conference Paper
Text version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/10119/19485
Rights	本著作物は研究・イノベーション学会の許可のもとに掲載するものです。This material is posted here with permission of the Japan Society for Research Policy and Innovation Management.
Description	一般講演要旨

コロナ禍の経験から学んだ大阪公立大学 Vision 2030

—大阪発、総合知で未来社会を創造する大学へ—

○井端 雅一（大阪公立大学）

m.ibata@omu.ac.jp

1. はじめに

コロナ禍では学部学生を中心にオンライン授業が行われたが、学生とのディスカッションを要するゼミや大学院生等の実験や実習では、人数を制限したり交替で出て来させたりして少人数で対応された。また、教職員も在宅勤務と組合せて人数を制限して出勤し、積極的にオンライン会議をした。現在も国内外の大学や企業との会議／打合せ、教職員との会議／打合せ等に適宜オンライン会議が行われている。

コロナ禍の経験や国内外の諸情勢を鑑みて、①知の拠点の構築、②社会課題への挑戦、③持続可能性への貢献の3つの目標を掲げた大阪公立大学 Vision 2030 が設定された。目標達成のために社会共創、教育、研究、医療、国際協働、ガバナンスの6つの Vision を掲げており、本報ではそれらの取組みを紹介する。

2. コロナ禍に対応した大学での取組み

2. 1. オンライン授業

コロナ禍においては、オンライン授業が積極的に進められたが、オンライン授業には表1に示すようなメリット、デメリットが考えられる。また、通信環境の影響も考慮する必要がある。

オンライン授業が浸透することによって、全国のどこにいても学習機会を損失せずに授業を受けられる点は大きなメリットであるが、反面、オンライン授業だけで授業が行われると、友達との人間関係を築きにくく、ストレスになってしまう可能性もある。まだまだオンライン授業は進化の過程にあるため、メリットやデメリットを良く理解して活用すべきと考える。

表1 オンライン授業のメリット／デメリット

メリット	<ul style="list-style-type: none"> • 時間や場所にとらわれず授業を受けることができる
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> • 体験学習が必要な授業には適さない • 学生同士の交流を深めるのが難しい • 学生全員の表情をいつも把握できるわけではない

工学系の学部学生、大学院生は実験や実習が必須であり、コロナ禍では人数を制限したり交替で出て来させたりして少人数で対応された。また、学生とのディスカッションを要するゼミも少人数で対応された。

2. 2. 教職員のオンライン会議

オンライン授業だけでなく、教職員同士の会議／打合せ、教職員と企業との会議／打合せにもオンライン会議が積極的に活用され、現在も適宜オンライン会議が開催されている。また、学会での講演会や国際会議でも時間と場所にとらわれないので、オンライン会議が活用されており、オンライン会議のメリットは大きいと思われる。

3. Vision 2030

3. 1. 3つの目標

大阪府立大学と大阪市立大学の2022年4月の統合、コロナ禍の経験や国内外の諸情勢を鑑みて、①知の拠点の構築、②社会課題への挑戦、③持続可能性への貢献の3つの目標を掲げた大阪公立大学 Vision 2030⁽¹⁾が設定された。

まず、世界水準の高度な教育・研究を推進し、多様な専門知の育成とそれらの知を有機的に連携させた総合知の活用により、大阪と世界の発展に資する「知の拠点」を構築する。

次に、教育・研究の多様性を推進し、ステークホルダーと協働しながら、「社会課題の解決」に向けたイノベーションに挑戦する。

さらに、総合知を活用した持続可能な都市・大阪の実現とその世界への発信を通じて、環境、医療・健康、食糧、エネルギー、人口問題など、「持続可能性」へ地域から世界規模の課題解決に貢献する。



図1 Vision 2030 概念図

3. 2. 実現に向けた6つのVision

大阪公立大学では、前節の3つの目標を達成するために、表2に示す6つのVisionと実現に向けたAction Planを掲げている。

(1) Vision 1 社会共創

大阪に根差した日本で最大規模の公立大学として、行政および各種コミュニティ、産業界との連携を強め、大学の知を地域の様々な課題解決のために活用し、人々の健康と福祉、そして文化的生活の向上に貢献する。

(2) Vision 2 教育

高度な専門性と広い学際性の両面から物事の本質を問う力と課題を解決する力を有し、他者と協働しながら未来社会をデザインできる人を育てる。

(3) Vision 3 研究

学理の探究を核とした世界水準の基礎・応用研究、学際研究を推進し、国際競争力の高い大学を目指すとともに、社会課題の解決に挑戦する。

(4) Vision 4 医療

最先端の医学的知見を生かし、医療分野を先導する医療人を育てるとともに、患者本位の良質な医療を提供することで、持続可能な社会の実現に貢献する。

(5) Vision 5 国際協働

国際教育・研究ネットワークの構築を通じて、国際的な相互理解を進めることのできるグローバルリーダーの輩出と知の循環を促進し、地球規模の課題解決に貢献する。

(6) Vision 6 ガバナンス

学長のリーダーシップの下、多角的な財務基盤の構築と戦略的な資源の配分を推進することで、大学運営体制を革新する。

表2 6つの Vision と Action Plan

Vision		Action Plan
Vision 1	社会共創	<ul style="list-style-type: none"> ① イノベーション・アカデミー事業の推進による産学官民共創の展開 ② スタートアップ支援の充実と地域課題解決への活用 ③ キャンパスの開放とライフステージに応じた教育プログラムの提供による生涯学習の充実 ④ 図書館機能の充実と大学関連資料の保存による知のアーカイブ化の推進 ⑤ 持続可能な社会の実現に向けた新たな教育研究組織の設置
Vision 2	教育	<ul style="list-style-type: none"> ① 専門教育の充実と分野横断・異分野融合教育の推進 ② オンラインと対面のハイブリッドな教育による学習効果の向上 ③ 実践的データサイエンス教育によるデジタル技術・データ活用スキルの涵養 ④ 産学官民共創による社会課題の解決に向けた教育プログラムの充実 ⑤ 博士課程学生への経済的支援とキャリアパス整備の充実 ⑥ 多様な学生への支援体制の確立と多様性を尊重する学生の育成
Vision 3	研究	<ul style="list-style-type: none"> ① 基礎研究の振興、および総合知を活用した新たな社会的価値の創造 ② 世界を牽引する研究拠点構築に向けた重点支援 ③ 次代を担う研究者の育成と次世代研究シーズに対する包括支援 ④ 女性研究者が能力を発揮できるための教育研究環境の充実 ⑤ 先端的研究基盤の共用促進による研究環境整備 ⑥ 研究成果の社会実装に向けた支援体制の充実
Vision 4	医療	<ul style="list-style-type: none"> ① 国際感覚を持ち、チーム医療を実践する高度専門的な医療人の育成 ② 先進医療研究の推進 ③ 安心かつ良質な患者本位の最先端医療の提供 ④ 医療機関および地域コミュニティとの連携強化を通じた医療体制の充実 ⑤ 産学官民共創による医療技術、医療製品の創出 ⑥ 異分野融合型創薬研究の推進に向けた新たな教育研究組織の設置
Vision 5	国際協働	<ul style="list-style-type: none"> ① 世界の学生を惹きつける国際教育プログラムの開発 ② キャンパスの国際化の推進と留学生支援体制の充実 ③ 国際研究ネットワークの拡充を通じた国際共同研究の促進 ④ 国際的なアントレプレナーシップ拠点の構築
Vision 6	ガバナンス	<ul style="list-style-type: none"> ① ダイバーシティの実現 ② 大学の社会貢献と成長を支えるための多様な財務基盤の構築 ③ 大学 IR に基づく学内リソースの戦略的投資 ④ 卒業生ネットワークの強化と新たな大学サポーターの開拓 ⑤ 全学的 DX による戦略的教育研究活動の推進

3. 3. イノベーション・アカデミー事業

表2に示す Vision 1 社会共創の Action Plan 「①イノベーション・アカデミー事業の推進による産学官民共創の展開」の実現に向けての具体的な取組みを紹介する。

地域の発展と世界レベルの課題解決に貢献する「知の拠点」となることを目指して、イノベーション・アカデミー事業が策定された。(2) イノベーション・アカデミー事業では、図2で示すように「産学官民共創リビングラボ」機能を大学が持つすべてのキャンパスに配置し、「スマートシティ」、「スマートエネルギー」、「スマート農業」、「スマートヘルスケア」、「子供未来社会」の5つの共創研究ユニットと、中百舌鳥キャンパスに設置されているドイツ人工知能センター日本ラボとAIで連携して「ネットワーク型イノベーション・エコシステム」の構築を目指す。

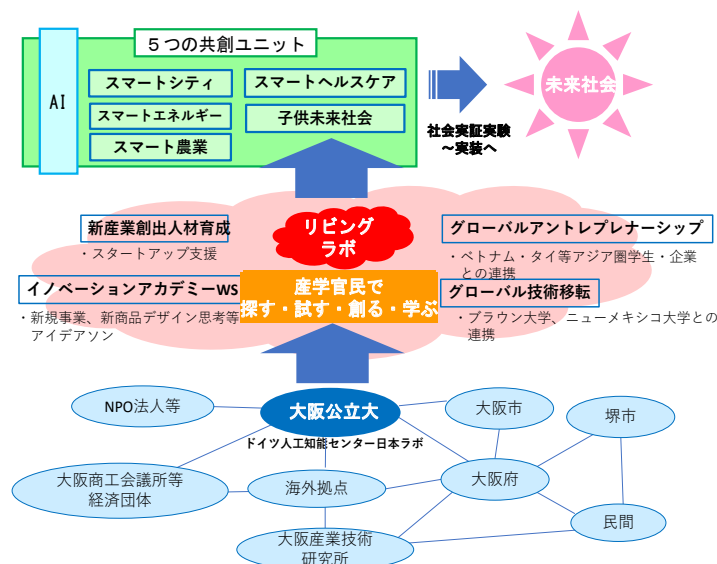


図2 イノベーション・アカデミー事業

ここでは、産学官民が課題を共有し、課題解決のためのプロジェクトをデザインし、その推進において「リビングラボ」として社会実装に向けた実証実験を繰り返す。そして、そこから新しい価値の創造、新しい社会に向けた提案が生まれ、その過程で人材育成、スタートアップ企業が生まれる。

「なかもずハブ」を産学官民共創イノベーション・エコシステムのハブ機能として、社会実装要素技術の創出、もりのみやHQ (Head Quarters) への展開、「脱炭素」や「創薬」などを通じた大阪産業の競争力強化とSDGsへの貢献、スマートグリーンハウスやゲノム編集を活用した次世代農業の社会実装実験、スタートアップエコシステム拠点(アントレプレナーシップ教育)を目指す。さらに、2025年には森之宮キャンパスをフルオープンして、「もりのみやHQ」を全学ネットワーク型イノベーション・エコシステムの本部司令塔機能として、スマートユニバシティ、スマートシティの産学官民共創リビングラボ、都市シンクタンク・技術インキュベーション機能、データマネジメント、アプリ開発、DX/CPS (Cyber-Physical System) 人材の育成、データ連携基盤/都市OSを用いたスマートシティ実証・実装、リビングラボのデータを活用した若者文化・にぎわいの発信基地を目指す。

3. 4. 地域中核・特色ある研究大学強化促進事業 (J-PEAKS)

大阪公立大学は、令和5年度文部科学省「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(J-PEAKS)」に公立大学で唯一の提案校として採択された。本事業では、本学が公立の総合大学としての特徴を活かし、多様なステークホルダーと共創して様々な時間・空間的な観点から高質なwell-being都市創造するためのマルチスケールシンクタンク機能を備えた地域拠点となり、その成果をアジアそして世界へと発信するための大学改革を強力に推進している。

表3 採択された提案内容

テーマ	イノベーション・アカデミー事業の推進によるマルチスケールシンクタンク機能を備えた成熟都市創造拠点の構築
参画機関	長岡技術科学大学、東北大学、奈良女子大学、徳島大学、大阪公立大学工業高等専門学校、ニューメキシコ大学、ブラウン大学、王立ブノンペン大学、国立台南大学、パンヤピワット経営大学
事業内容	① 産学官民共創リビングラボを推進する「イノベーション・アカデミー事業」を通じた共創研究の加速化 ② 社会から信頼され、行政のブレインとなる都市シンクタンク機能の醸成

本事業は、本年7月5日に東京・丸ビルホールで開催された J-PEAKS キックオフシンポジウム（主催：独立行政法人日本学術振興会、共催：文部科学省）で「イノベーション・アカデミー事業の推進によるマルチスケールシンクタンク機能を備えた成熟都市創造拠点の構築」として事例紹介された。

3. 5. スタートアップ支援体制

次に、表2に示す Vision 1 社会共創の Action Plan 「②スタートアップ支援の充実と地域課題解決への活用」について紹介する。

大学発の技術シーズを実用化する動きは、国や企業、VC（ベンチャーキャピタル）によるスタートアップ支援もあって、近年さらに加速している。経済産業省の調べでは、2023年10月時点での大学発ベンチャー数は2022年度の3,782社から506社増加して4,288社である。⁽³⁾

大阪公立大学では、研究シーズの社会実装を目指して、図3に示すような発掘フェーズ、アイデアフェーズ、POC（Proof of Concept、概念実証）フェーズ、起業フェーズの各フェーズにおいて、スタートアップ創出・支援センターが中心となって、URAセンター、技術移転推進オフィス、産学官民共創推進室と連携して大学発ベンチャー企業の支援をしている。すなわち、発掘フェーズの「ベンチャー企業に結びつく研究シーズ発掘」から始まって、起業フェーズの「ベンチャー企業の承認、知的戦略策定支援やVC紹介」までを連携して支援している。

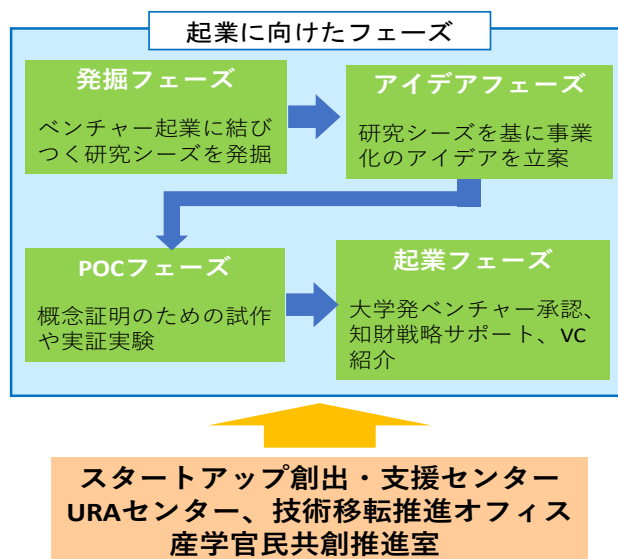


図3 各フェーズと支援体制

4. おわりに

コロナ禍に対応した本学での取組みとして、オンライン授業、教職員のオンライン会議を紹介し、コロナ禍での経験や国内外の諸事情を鑑みて大阪公立大学が2030年に向けての目標として、①知の拠点の構築、②社会課題への挑戦、③持続可能性への貢献の3つ目標を掲げ、3つの目標を実現するために、社会実装、教育、研究、医療、国際協働、ガバナンスの6つのVisionを紹介した。

そして、Vision 1の Action Plan 「①イノベーション・アカデミー事業の推進による産学官民共創の展開」と「②スタートアップ支援の充実と地域課題解決への活用」について具体的な取組みを紹介した。

参考文献

- (1) 大阪公立大学 Vision 2030
https://www.omu.ac.jp/vision/?utm_source=website&utm_medium=banner&utm_campaign=omu_banner
- (2) 大阪公立大学イノベーション・アカデミー事業 パンフレット
<https://www.omu.ac.jp/research/innovation-academy/>
- (3) 令和5年度産業技術調査報告書（大学発ベンチャー実態等調査）
<https://www.meti.go.jp/press/2024/05/20240515001/20240515001.html>